



第16回 2021年12月9日

会長挨拶

福島佳之 会長



皆さん、こんにちは。先週ホームミーティングを開催させて頂いて、当日新入会員の方々が14名参加して頂きました。懇親会の中で、私はまだペーパーの頃、例会で座る場所が決まっていますよね。一部上場の支店長・支社長さんクラスというのは、他の会員の仲が非常によろしくて同じ場所にいつも座ってらっしゃる。それを敢えて、太田宏先生、鈴木禎夫さんがそこに割って入れば、いつも座っている方々が別の席に座ってまたそこで歓談できるということで、今日拝見するとももの見事にばらけていて和気藹々としていいなという今日の例会場です。

11月に日銀の支店長がお話なされましたが、税務上で言うと国内版のインボイス制度、ダイレクト納付、電子帳簿保存法、一番困っていたのが電子帳簿保存法なんですね。これが来年の1月1日からスタートということでしたが、今週の月曜日の日経新聞に今になって2年間の猶予を設けるといって変わってしまいました。猶予になった理由というのが、企業の経理担当者がこの法律が変わるといって知らず知らずのうちに7割超だったそうです。多分経理担当者が分からないということは、会社の長の方々も分かってないのが現状なのかなと思います。新聞報道の第一面でそれが載ったというのが非常にびっくりしました。

幹事報告

阿部充宏 幹事



例会変更のお知らせが各テーブルにあります。ご覧になって頂ければと思います。

会員増強委員会報告

大野勝久 副委員長



私ども郡山RCは昭和11年に創立し、本年度で86年目を迎えることが出来ました。創立60周年時の会員数が110名、創立70周年時は104名、80周年時は104名ということで、約30年間に亘って殆ど会員減少が見られない。これは100名以上の会員を持っているクラブの中では全国的に見ても非常に稀なケースだと思っています。しかしながら、この数ヶ月の間100名を切って本日は98名です。本日皆様のレターボックスに用紙を入れさせて頂きました。記入を頂いて、私どもにご提出頂ければ、私どもで会員勧誘・増強に全力で努めて参りたいと思いますので、会員増強に対するご協力を宜しくお願い申し上げます。

雑誌委員会報告

有賀隆宏 委員長



「ロータリーの友」12月号を紹介いたします。

- | | | |
|----|-----|--------------------------|
| 横組 | 4頁 | シェカール・メーター会長 |
| | 7頁 | コロナ禍で負けない私の元気に過ごすコツ |
| | 16頁 | ストレスチェック・メンタルヘルスについて |
| | 18頁 | 障害は個性と思える社会に |
| | 49頁 | 国際ロータリー年次大会2022 |
| 縦組 | 4頁 | 筋肉を保持、貯筋する大豆の力、宇宙実験でわかった |
| | 9頁 | いわき小名浜RC村田裕之会長 |

親睦活動委員会報告

二瓶健一 委員長



来週のクリスマス家族会が迫って参りました。皆さんご協力ありがとうございます。登録が今100名を超えました。非常に賑やかなクリスマス家族会になると思います。協賛の方も皆さん本当にありがとうございます。引き続きお待ちしております。

ニコニコBOX委員会報告

宮川雄次 委員長



- ◎星北斗さんの卓話を楽しみにしています。
福島佳之君、阿部充宏君
- ◎星先生、ようこそ。どうぞ県民のみならず、日本の世界の人々の健康を守って下さいますよう、ご活躍をお祈り致します。 安倍元雄君
- ◎星先生の卓話、楽しみにしております。
太田 宏君、高橋孝行君、伊野泰司君、池田達哉君、大木勝浩君、中原喜範君、橋本 勝君、佐藤政弘君、高橋裕一君、青木 誠君、橋本謙一君、幕田宙晃君、宮川雄次君
- ◎話題の人、星北斗先生の卓話に期待しています。 湯浅大郎君
- ◎銀婚のお祝い、ありがとうございました。 佐藤尚宏君
- ◎結婚記念日のお祝い、有難うございました。 渡邊邦浩君
- ◎星理事長、宜しくお祈り致します。昨日、初孫誕生致しました。 鈴木淳策君
- ◎いつも出席できず、申し訳ありません。 星北斗君
- ◎本日も宜しくお願いします。 成田英樹君

プログラム紹介

山口 仁 副委員長



星北斗先生からお話を頂ければと思います。宜しくお願いします。

会員卓話

「新型コロナウイルス感染症の真実」

公益財団法人星総合病院 理事長
一般財団法人福島県医師会 副会長

星 北斗君



COVID19は2019年に初めて見つかりました。2020年の最初の内には、子供にはかからなそうだなとか、或いは基礎疾患、特に肺に問題がある人はヤバそうだなという話があって、現にその後多くの有名人がコロナ感染症で亡くなりました。我々はコロナウイルスというのはよく知っているウイルスの一つです。一般的な風邪を起こすウイルスと非常に共通点が多く、一つ部位の中に入っているウイルスが突然変異をして

感染性を上げて流れてきたようです。日本に限らず水際作戦を色々やったわけですが、日本で言えば思い出すのがダイヤモンドプリンセス号です。一応水際で頑張ったけれども結局頑張り切れず、その後急速に拡大が広がっていった。マスクが不足したり、本当にどうしようかという暗い感覚の時代でありました。その時期にみんなが新幹線や飛行機にも乗らない、家から出られない、どうしようかという時に、今になって分かったんですが、家の中に長く居ることによって様々な家庭内のトラブルが増えた。でも当時はそんなことを言っている暇がなく、何しろコロナが怖い、だから家から出ない。マスクをしてない奴には批判をする、大変世知辛い世の中全体も荒みましたし、家庭内も荒んだ時期。ただそれは後になって言われるんですね。今になって児童虐待が増えているとか、或いは家庭内暴力が増えているとか、そういうことが1年半以上経って言われている。しかし現実にはそういったことは深く先行して、コロナウイルスそのものも恐怖だけではなくて、地域内や家庭内に潜む様々な危険を我々に教えてくれた。そういうウイルスでもあります。あつという間の1年で、2020年はよく分からないうちに過ぎていきました。更に2021年になりますと第五波が7月から始まり、1日最大200人ぐらい県内でも見つかって、病床が足りなくなった。そして自宅療養を余儀なくされた。ホテル療養もなかなか難しく、ホテルの確保も丸々1棟借りるということになりますね。これは一定の数を使ってくればそれなりの収入が得られるのかもしれませんが、例えば当時、便器に付くと2週間ぐらい無くならないみたいな時期で、これを掃除をする人達をどうすんだ、どう風にして入れるんだというのが議論になりました。最初にホテルに入れると決めて確保して入れることになりました。例えば100室あって同時に使っているのは30~40室なんです。それ以上は使えない。なぜなら1階を埋めていって、そしてその患者さんが全部居なくなってから初めて2階の掃除を始めて、2階の掃除が全部終わらないと2階には次の患者さんを入れられないという状況が続いて、現実にはそういう運用をしたものですから、ホテル数はあるに関わらずホテル療養も人数が増えていかないという現象が起きました。勿論病院も同じです。病院も基本的には個室で管理しますが、病院の中に患者さんを1人対診退院させるとするのは、その背景に何があるのか、どんなことを注意しなければいけないのかということ聞き取って、その状況に合わせた看護計画・医療計画を立てなければいけないということがあります。ということで病院も何百床あるはずなのに最大70%ぐらいしか使えてないと思いますけれども、無駄な保証金を貰っていて幽霊病床なんていう言葉も出てきて、我々はその度に心を痛めて、仮に本当にやりますと言って引き受けない病院があったら責められてもいいけど、オペレーション上これができないということがどうして分かって貰えないのかな、マスコミにも説明するんですがマスコミから一般の人達になかなか伝わらずに、結局自宅療養になったというのは病院とかホテル療養のマネジメントが悪かったせいだというような批判が繰り返されました。

現時点で確保されている病床が637床あります。これが750ぐらいを目指して確保しようということになっています。勿論完全に関

つ放しで看護師さん達が何もしないで待っているという状況での637床ではありません。今後増えてくれば看護師さん達をそこに張り付ける。そして他の病棟の看護師さん達をそこに出すために、他の病棟の運用を止めるということも順次していくことになります。ですので、そういう苦労をしながら一般の医療を守りながら、そしてコロナ医療にも対応しているという病院があるということこそ是非ともイメージ頂きたいと思います。宿泊療養も600室を目指しているようで、これも近いうちに確保されることになると思います。何が大変だったかという、まず治療法が見つからなかったことです。僕らが今思うのは、志村けんさんと岡江久美子さんがあと半年後にコロナに罹っていたら、多分命を落とすことはなかったんじゃないかなと思っています。なぜなら我々は重症化を遮る薬も今手元にあります。近いうち、多分飲み薬も出るでしょう。そしてワクチンも我々の手に来ています。こんなに速くワクチンや飲み薬が開発された疾患は今まで1つありません。これだけの世界中の人達が同じ脅威に向けて努力をしたというのは、多分世界の医療が始まって最初の経験で、多分私はそれぞれの立場、それぞれの国、そして我々のような末端の医療従事者を不安の中から得たものがとても大きくて、次への準備にしっかりと結びついてると自負しています。

3回目のワクチン接種は一昨日打ちました。前は熱が出ましたが、今回熱も無くてこれから先、私の立場から言えば予約券が来たら躊躇せずに予約を取って打って頂きたいと思っています。ただ問題は、私はこのことだけではないと思っています。まだ1回目・2回目を終えてない方がいます。打っていない特に若い世代の人達にどうやって受けてもらうのか、これが我々の残された大きな課題です。もしご家族或いは会社の方でそういうものを受けてないという人がいれば、受けるように促して欲しいと思いますし、来年の2月ぐらいになると5~11才の子ども達にワクチン接種ができるようになります。今回医療従事者に対しては非常に皆さんから強い応援を頂きました。僕らはそれに甘えることなく、この次のオペレーションを粛々としっかりとすることによって、これだけ皆さんからご支援・感謝を頂いている医療というのが、この先も礎であり続けるように我々も頑張っていきたいと思っています。実際これからはこういう飲み方、こういう食べ方、こういう楽しみ方というのが一定期間続くことが予想されます。その中で楽しみ、正にクリスマス家族会は感染に配慮した上で行われると期待しております。皆様方が素敵なる年末年始が送れるように、そして心配なく医療を提供できるように我々も準備して参りますので、これからも応援と支援を宜しくお願いします。

出席報告 佐藤 聡 委員長

総員/98名 出席/59名 欠席/39名
出席率/60.20% 前回修正率/67.44%
他クラブ出席/3名



次回 第18回例会
令和3年12月23日(木)

年次総会

生コンクリート製造販売 郡山生コン須賀川(株)

代表取締役 綾 哲 志

〒962-0001 須賀川市森宿字安積田194

☎ 0248-75-4111 FAX 0248-75-4110

有限会社 銀座美容室

代表取締役 池田 達 哉

〒963-8005 郡山市清水台 2-5-3

☎ 932-1171 FAX 932-1194